

日本外来小児科学会07に参加して

院長

今月は、毎年恒例となっている学会の参加の話を楽しみましょう。8月23～25日は学会参加のために休診し、大変御迷惑をおかけしました。早めに掲示したつもりですが、知らずに来院した患者さんもいたかと思えます。

参加したのは日本外来小児科学会で、院長は役員のため毎年参加しなければなりません。昨年横浜での学会の模様も記事にしましたが、今年の開催場所は熊本でした。小児科の開業医の先生が中心で、全国から1500人を超える参加者が集まりました。普通、学会というと医師だけの集まりなのですが、この学会は看護師や薬剤師、事務スタッフが参加できるのが特徴です。

今年は遠いということ、スタッフの都合がつかないことが重なり、院長と息子での参加することにしました。息子は医学部の4年生ですが、学生が参加できるワークショップ(小さな会合みたいなもの)があるので、勉強のため連れて行くことにしました。毎年のことですが、ただ参加するだけでは物足りなく、今年は演題の発表と展示を行ないました。

8月23日朝仙台空港から伊丹空港へ。乗り継ぎで熊本着は11:30。さっそくレンタカーで出発。学会の話の中で観光は不謹慎ですが、遠くへ行くと名勝地を訪れたいし美味しいものを食べることも楽しみのひとつです。息子の運転で一路、阿蘇へ。時間も丁度お昼時、空腹を我慢しながらカーナビを頼りに地元の赤牛の田舎レストランへ。しかし、行けども行けど目的地は見つからず、カーナビの電話番号の入力ミスに気付いた時には車もすれ違えないような山道へ。電話で何度も説明され、やっとの思いで予約時間から1時間後に到着。もうお腹はペコペコ。肉には満足、でも冷汁には少々戸惑いを。食べたことの無い冷たいみそ汁では暑さもひききれず。阿蘇の火口を目指して満腹後に出発。阿蘇草千里ヶ浜等の美しい風景を堪能して、中岳火口へ。駐車場へ着くと、火口への道が通行止め。ならばとロープウェイ乗り場に行くも運休中。どうも風向きで火山ガスが溜まっていて、頂上へは行けないとのこと。せっかくここまでと思いつつこと20分、日頃の行いが幸いして(?)ロープウェイの運行開始。頂上へ着くも、火口の回りは立ち入り禁止。やはり日頃の行いの悪さかと、息子と二人でお互いのせいと思いつつ反省の時。でも神は見捨てていなかったようで、最終のロープウェイ前に火口を覗くこと

が。もうもうと立ち上がる噴煙と神秘的なマリンプルーの湯溜り(ゆだまり)に感激し、神の御加護を感じながら再び熊本市内へ。翌日は猛暑の中のゴルフの後、役員会へ。息子は学生のワークショップへ。

私の工夫では、「患者さんからの贈り物—お母さんクラブの軌跡—」と題して、1998年から始まった『お母さんクラブ』の紹介と今年のクリスマス会で会員から頂いた手作りのクリスマスツリーを展示しました。お陰様で『お母さんクラブ』は7月で開催回数80回、延べ参加人数は1205人、毎回15人程度の会員が参加しています。開催テーマは多岐にわたり、院長が担当する“こどもによく見られる症状・病気と対処法”等。スタッフが担当する“こんな時どうするの?-スタッフ編-”等。外部講師が担当する“あなたは大丈夫? 救急蘇生”、“食育ってなあに”、“問題商法に御用心”、“親子で楽しく読み聞かせ”等。他にはリクリエーションの“クリスマス会”等があります。展示では各テーマの写真、そして今年のクリスマス会を少し詳しく写真入りで紹介をしました。発表したものを待合室に展示してありますので、是非ご覧ください。そして、入会をお待ちしています。

電子カルテの講演発表(内容は5月号を)も無事に終わり、一安心の後熊本城を息子と見学。連日の35℃を越える猛暑、東北人には絶えられない暑さ。シャツだけでなく、パンツまでびしょりの旅行でした。

私の工夫で「患者さんからの贈り物」の展示ができたのは、まさに患者さんのお陰です。もちろん電子カルテの発表も、患者さんの協力があったからできたのです。発表はクリニックでの取り組みを紹介することが目的ですが、それだけではなく院長含めたスタッフ全体として一つの仕事に取り組む大切さを学ぶということもひとつの目的なのですが、学会の報告だったのですが、旅行記に多くを割いてしまいました。このように学会に参加できるのも、皆さんのご理解のおかげです。ありがとうございました。

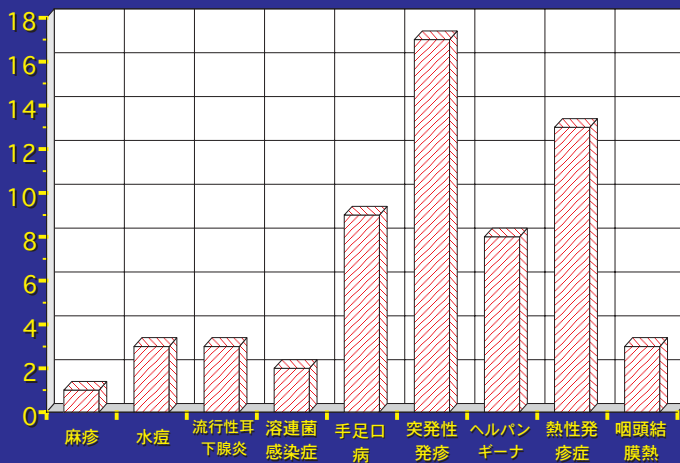


読者の広場

先月は休みが多かったにもかかわらず15通のメールを頂きました。ほとんどは医療相談です。医療相談を紹介するとプライバシーに関わるので、なかなか難しい所です。帰省先からの相談があったので匿名で紹介します。不謹慎ですがちょっとしたドラマのようです。「こんにちはお久しぶりです。〇〇△△、××の母です。今日もまた決断に迷って一人ぐじぐじ悩んでいたの聞いて下さ~い(>_<)先週末から関西に来ていて、今日夕方の便で大阪から仙台に帰る予定だったのですが…狙ったかのように明け方から△△が熱を出し、朝一で近くの小児科を受診してきました。喉がかなり赤いようで、へ/パンギーナかな?との事。熱が出始めたばかりだし、まだ喉に水泡も見えないので、確定ではないようです。風邪薬、抗生剤、座薬、ダイアップとお薬も万全な処方をしていただき、その点は安心なのですが今日の飛行機をどうするか…子供の事を考えれば、熱がある今、安静が一番と分かっていますが、航空券のキャンセル料とか、熱は3、4日は続くようなので、滞在を延ばすとちょうどお盆にかかり新たにチケットが取れないかも等、大人の都合も考えてしまい(-_-;)飛行機は18時過ぎなので、夕方までもう少し様子を見ようと思っていますが、どうしよう…今回はトラブルなく来たと喜んでいたので、最後にやっぱり起きちゃいました。」。返信は「メールありがとう。大変でしたね。この返事はあくまでも医師の立場ではないということで、読んでください。医師であれば、「熱があるのに飛行機に乗るなんて」叱ってしまいます。どちらにしてもカゼのひとつでしょう。元気があれば、飛行機に乗る2時間ぐらい前に解熱剤を使うのもひとつの手だと思います。もちろんダイアップは挿入しているでしょう。飛行機の時間は、せいぜい1時間ぐらいのものです。その間に何かが起ると言う可能性は、少ないと思います。そう考えてはどうでしょうか?。キャンセル料とかチケットのことも考えてしまうのも確かです。基本は子どもが優先と言うことは、言うまでもありません。かといって大丈夫ということはい切れませんので、参考程度に考えてみてください。歯切れが悪い返事でごめんなさいね。お大事に。」。そして「お忙しいところ早速お返事ありがとうございます。川村せんせ~い(>_<)こんな、相談というか、独り言のようなメールでは先生も困るだろうと思いつつながら送信しちゃいました。最終的には親の私の判断だと思いますが、先生のアドバイスとても嬉しいです。ダイアップは一つ目を入れました。本人はいつもの半分ぐらいの元気なのに飛行機に乗ると頑張っていて。なのに、寝てしまいました。もう少し様子を見て、いけそうなら先生のアドバイスで行ってみようかなと思います。本当にありがとうございます!」。続いて「何度もすみません。先程、ダイアップを入れた後にひきつけを起こしてしまいました。受診した先生に電話をしたところ、座薬を入れて効き始めるまで2、30分かかると座薬を入れたことで刺激になってしまったのではとのことでした。けいれんはすぐに治まり、また眠っています。やっぱり帰るのは無理かな…。次の日にまた報告があり、「昨日はお世話になりました。結局帰れずにまだ大阪にいました(^_^);昨日は痙攣が治まった後もどうも様子がおかしく、市立病院の救急を紹介してもらい血液検査、点滴を受けてきました。今朝は熱も下がり、元気も出てきましたが、急の為昨日はじめに受診した近くの小児科を受診してきました。先生のお話によると3才児には珍しく細菌に感染したようだと言う事です。原因が分かりほっとしています。たまたまネットで探して一番近かった小児科だったのですが、とても良い対応、判断をして下さる先生に出会えたし、川村先生も最近ご無沙汰していたのにすぐに不安を解消できるメールを下さったりと本当に感謝しています。飛行機もキャンセルしてしまったので、△△の体調が落ち着くまでもう少ししばらくゆっくりしてから仙台に帰ります(^_^)」。院長からの返信「帰れなかったのは残念だったけど、とにかく重症な病気では無く安心しました。無理して飛行機に乗って、飛行中にけいれんを起したら大事だったかもしれません。飛行機の中でなく、重症ではなかったことは、考え方によってはラッキーかもしれません。少しゆっくりしてきてください。それでは。」。とにかく重病では無くて本当に良かったと思っています。こんなメールでのやり取りができる患者さんとの関係は理想的だと思います。お礼までもらって、本当に嬉しいことです。こちらからありがとうと言いたいくらいです。



8月の感染症集計



麻疹(8カ月)がひとりみられました。感染経路は不明でしたが、その後の広がりはありません。夏カゼの手足口病・ヘルパンギーナは少し増加していましたが、水痘・おたふくはかなり少なくなっています。

9月のお知らせ

- ・横浜市立大学の医学部学生実習日にちは未定。ご協力を!
- ・栄養育児相談
毎週水曜日 13:30~
栄養士担当 参加無料



編集後記

今年はほんと猛暑でした。まして熊本では東北人ではとても耐えられません。学会にも行くけど観光も。よく学べ!よく遊べ!の精神です。冬に向かったの混雑のためのリフレッシュです。スタッフも夏休みが2回あって、みんな大喜びでした。御迷惑をかけました。ご協力ありがとうございました。



院長著書「小児科医がやさしく教える 赤ちゃん子どもの病気」の再版にご協力を。
詳しくは [かわむらこどもクリニックHP](http://www.kodomo-clinic.or.jp)(<http://www.kodomo-clinic.or.jp>)を